

平成 28 年度(2016 年度)

日本特別活動学会 第 3 回 実践事例募集事業

推 奨 実 践 事 例

事例番号 3-3

年間を通して絆を深める学級づくりの実践

大阪市立関目小学校 吉 田 慶 子

実践テーマ	年間を通して絆を深める学級づくりの実践
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	本学年は、3年生から現在の5年生に至るまで担任をしている。担任として、学級活動を学級経営の中心において指導してきており、学級活動における児童の自主的な実践は、かなり活発になってきており全体に浸透している。様々な活動において、互いに協力し合いながら活動することができる。しかし、気の合った友達とだけ仲良く遊んでいたり、親しい友達関係を築くことができなかつたりする児童が見られるなど、特定の間人同士の結び付きがやや強いように感じる。学級としては、様々なことをやり始めてはいるが、経験が乏しくまだ深まっているとは言えない。学級の絆を深めるには、相手と適当な距離をとって自分に傷がつかないようにしている関係ではなく、本音を言い、互いにぶつかり合い、成長していく中でこそ絆を深めることができると考えた。新しい人間関係を築こうとするこの時期に、学級の「絆」を深めるような活動を計画することを通して、自分たちの力で学級をつくっていくことを意識させた。そして、よりよい学級にしたいという児童の思いをくみ、「絆」を深める年間計画をイメージングすることで方向づけをする。この時期に自分たちで舵を取るような活動をすることで、クラス全体の意志統一ができると考えた。この取り組みは、児童が「成すことによって学ぶ」ということを、年間計画を立て、見通しをもって実践することを通して、自分たちが学級をつくっていくことを大切にするものである。このことをきっかけに、クラスの一員として、互いに認め合い支え合えることのできる人間関係を築きたい。そして、学級の「絆」も深まると考えている。
実践の時期	平成 28 年 6 月

年間を通して絆を深める学級づくりの実践

～信頼し支え合って楽しく豊かな学級をつくる5-2絆計画の実践～

大阪府大阪市立関目小学校 吉田慶子

1 はじめに

本稿では、6月4日に実施した学級会の指導実践に焦点をあてて報告する。この学級会は5年2組の児童自身が自分たちで協力してよりよい学級や学校生活をつくっていき、集団として学級の絆を深めていくために学級会の年間計画を決める話合い活動である。本取り組みの特徴は児童が為主によって学ぶこと、すなわち、自らが立てた学級目標（「絆」）を自分たちで達成するために、児童自らが学級会の年間計画を立てて、自らが見通しをもって学級をつくっていくことを重視している点にある。

2 児童の実態

この学年は、3年生から現在の5年生に至るまで担任をしている。3年生の時には、係活動や話合い活動など意欲的に協力して楽しく取り組んでいた。4年生では集会活動を行う際、めあてを大切に、互いのことを認め合えるような集団づくりを目指してきた。いくつかの問題が生じた時は、その度に全員で話し合って解決するようにしてきた。様々な活動を通して、良好な人間関係を築くためにみんなで努力してきた。担任として、学級活動を学級経営の中心において指導してきており、学級活動における児童の自主的な実践は、かなり活発になってきており全体に浸透している。

学級目標は、4月当初に「どんなクラスにしていきたいか」について自分の考えを短冊に書くことにした。そしてみんなで話し合い、「みんなで協力し合い、さらにお互いを信頼し合いたい」「互いのことを思い合えるようなクラスにしたい」「みんなで目標に向かって頑張りたい」「キャッチフレーズのような言葉にしよう」などたくさんの意見が出た。そこで、みんなの願いや思いが分かる目標にしようということで、「絆（【き】ょうりょくし合い【ず】っと友達で【な】しとげるぞ）5年2組」に決定した。そして、一人一人のよさを認め合い、協力でき

る集団を目指している。困ったことやできないことは、みんなで声をかけ合い協力して助け合っている。しかし、年度当初はまだまだ学級としては、相互の関係や互いの結び付きが希薄に感じる。

係活動では、学級目標を達成するためにはどんな係が必要かを考え、係の名前も工夫して楽しく分かりやすいネーミングにした。学級の絆が深まるようにと、遊び係が毎日「全員遊び」を計画したり、新聞係が「学級ニュース」を書いたりしている。どの係も、係活動の内容が学級目標の達成のために、協力しながら自分たちの活動が学級のためだと思っ

て行っている。話合い活動では、自分の考えをためらうことなく発表する児童もいるが、「恥ずかしいから言えない」「他人に何と思われるかが心配だ」という理由から、なかなか意見を言い出せない児童がいる。そこで、「学級活動ノート」を活用して事前に意見を考えておいたり、話合いの途中でグループで話し合ったりして発言しやすくしている。このような指導を繰り返した結果、臆することなく自分の意見を言えるようになってきている。そして、話合いの解決に向けて意欲的に参加している。司会グループは、全員が経験できるようにと4月当初より輪番制にし、計画委員会を開き、見通しをもったり、グループで協力してすすめたりすることができるようにしている。輪番制にしているからか、ほとんどの児童が司会グループになることを楽しみにしており、意欲的に進めている。



いて、集会活動などの「イベント」、5年2組にしかないものの「文化」、日頃から取り組める「日常」の3つの視点に分けて話し合った。提案理由や学級目標の言葉を使いながら意見を出し合った。比べ合う段階では、質問をしてそれぞれの考えのよさを分かり合うことができた。柱2では、柱1で精査した活動内容を「5-2絆計画」として立てた。「イベント」については、1学期に、名刺交換会を行い互いのことを知った上で児童が楽しみにしている林間を盛り上げる。2学期には、全員で給食を食べりとりをする。3学期には、絆が深まってきた学級のつながりをさらに深めるためにもミニ運動会を行うことが決まった。「文化」については、クラスのキャラクターを考え、学級旗を作る。学級日記を作りクラスのことを記録する。学級全体でぐるぐる日記を行う。学級文集を作り、学級の絆を思い出に残すが決まった。「日常」については、日頃からみんな遊びをしたり係活動で学級を楽しく盛り上げたりすることにした。また、朝の会や帰りの会で、今日のクラスのためあてを発表したり互いのよいところ見つけをしたりすることも決まった。さらに、月に1回大掃除をしてクラスで協力して学校をきれいにすることも決まった。

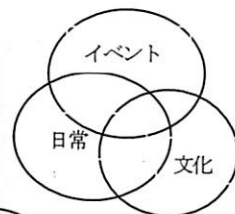
5 成果

年度の始めの頃に、このような絆計画を行うことで児童は年間を通して見通しをもって自分たちで学級をつくっていくことが実感できた。また、絆計画を実践していく上で、自分たちの経験も増えた。それを生かして「5-2ハロウィン」や「絆クリスマスパーティー」「大縄大会」などの新たな絆計画が生まれていった。このように経験が生き、全教育活動を通して実践の深まりが生まれ、さらに触発され既習知識を高めることができた。この絆計画をしていくことで、学級が育ち、児童同士の学級の絆を深めていくことができる年間を通しての実践となった。



6 課題

本時の話し合いでは、柱1で「学級の『絆』が深まる活動」について多くの意見が出た。拡散していった意見の収束の方法が課題である。比べる意見がいくつあると混乱するので、指導者が整理すると比べやすくなる。このように論点整理することで、児童の思考力を育てることができる。そして、児童が納得できるような決め方の支援を探求していき、合意形成力を育成していく。



國學院大学 杉田洋教授
による意見の収束のさせ方

また、児童に、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や自己実現を図るために必要な力をつけさせるために、担任として、年間を通して見通しをもって、断片的ではない実践を積んでいくことも課題である。学級担任として、どのような学級集団をつくりたいかをもって実践し、個々に応じた評価を行う。

7 おわりに

本学級の児童は、年間を通して、学級目標にある絆やよりよい学級・学校生活について考え、話し合い実践してきた。その結果、協力することや仲間の大切さ、集団としての高まりなど、大きく成長することができた。次年度は、最高学年になる。そこで、さらには、自分たちの力で質の高い学級文化をつくっていくことを期待している。